

学校番号				
3	1	0	0	4

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月2日
札幌市立啓明中学校

1 学校教育目標

「将来に希望をもち、豊かな知性を磨く生徒」(知) 「自分に厳しく、他をおもいやる生徒」(徳) 「ねばり強く、心身をたくましくきたえる生徒」(体)	【校訓「独立自往」】 【今年度の学校づくりに向けた実践目標】 「みんなが幸せになる学校づくり ～学び<主人公>として仲間とともに歩む生徒～」
--	---

2 学校運営方針

(1) 学校づくりの<主人公>としての意識の醸成 (2) 知・徳・体の調和のとれた育ち (ア) 学ぶ力の育成 (イ) 豊かな心の育成 (ウ) 健やかな体の育成 (3) 信頼される学校の創造 (4) 働き方改革の視点からの環境整備の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方法	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校運営	主体性、協働性の育成を重視した教育課程の検証や見直しを適宜進め、実践目標が適切に達成されるよう努力している。	A	今年度も生徒の主体的な生徒会活動、生徒会行事の取り組みを実施することができた。学校評価アンケートの「啓明祭、合唱の会などの行事が有意義なものである」という質問に対し、肯定的な回答が、生徒では昨年度より4.1ポイント、保護者では昨年度より7.45ポイント上回り、9割を超えている。また、校内でのあいさつ運動や地域のボランティアへの参加を通して奉仕の心の育成に努めた。次年度も引き続き実施していきたい。	A	A
	学級・学年PTA懇談、学校だより・学校ホームページなどを通して、本校の教育実践等をわかりやすく保護者、地域、関係小学校に伝えている。	A	ホームページの更新、学校・保護者間連絡システム「すぐーる」のデータ送信にて学校の様子や生徒の活躍の姿、PTA活動、緊急性の高い連絡を保護者や地域に伝えてきた。保護者アンケートによると「学校だよりやホームページを見ている」の項目は、昨年度の3.1ポイント増加から、さらに0.8ポイント増加しており、データでの配信、ホームページの掲載が効果を生んでいることがわかる。今後も内容を精選し、有用な情報を伝えていく。	A	A
	生徒、保護者の声を学校づくりに生かす「小中一貫した教育」の推進を図りながら、家庭や地域、校区内小学校との連携に努めている。	A	PTAの花壇づくりなどの各種ボランティア活動により、より良い教育環境づくりを進め、また、啓明祭・合唱の会等の行事の観覧機会を設け、多数の保護者に交流や生徒の活動の様子を見ていただいた。パートナー校となっている小学校と札幌研事業春の集会等の相互参加により、小中一貫した教育の推進を一步進めることができた。R9導入予定のコミュニティ・スクールの設立準備をすすめるとともに、生徒の意見の尊重、地域と学校の連携・協働に努めていく。	A	A
	学校は、防災教育、交通事故等の未然防止など、危機管理に関する指導を行い、生徒の危険回避能力の向上に努めている。	A	今年度も、2回目の避難訓練で出火箇所を教職員と生徒に知らせない形式で行った。避難ルートを担任、生徒に判断させるとともに、実際の災害時と同様に防火扉を閉めての訓練だったため、万が一に備えて緊張感のある訓練となった。併せて、今年度も情報モラル教室、警察の協力による非行防止教室を実施した。また、今年度よりリスクマネジメント委員会を設置し、トラブルの未然防止、危険予測・危険回避能力の向上に努めた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	○地域のボランティアに、啓明中学校から多くの生徒が参加し、体を使って幼児や未就学児童らと触れ合ってくれて、とてもありがたかった。生徒と地域に住む様々な年代の住民との交流の機会を、今後も継続していただいたい。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方法	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	生徒一人一人の学力の定着を目指し、少人数・習熟度別指導の活用や個別支援などを効果的に行い、学習指導と学習評価の一体化を進めている。	A	各教科において、「課題探究的な学習」を目指している。ICTの活用や協働的な学習から、生徒が主体的に課題解決に臨めるよう、課題設定や授業展開の工夫を行っている。さらに、英語科・体育科・音楽科等で少人数指導を行い、個別の支援も継続実施している。そうすることで、自分の学びを進め、自分と違う考えに気付き、更に深い学びにつなげることができる。今後も生徒の学習状況に応じた指導方法の改善を進めるとともに、学習指導と学習評価の一体化を目指していきたい。「課題探究的な学習」を学校全体で推進し、更なる学びの質の向上を目指していく。	A	A
	ICTを活用しながら、話し合いや振り返り活動を軸とし、生徒が主体的に参加できるような、分かりやすい授業づくりをしている。	A	各教科の学習活動でChromebookをはじめとするICT機器が活用され、特に学習成果を表現する場面での活用機会が増えている。教員のICT活用スキル向上研修も継続して行っている。ICT機器の導入が学習理解に役立っていると回答した生徒は「よく当てはまる」「当てはまる」を合わせて87.2%となり、前年から大きく向上した。保護者も同様に75.7%が学習理解に役立っていると前年より大幅に増加した。教職員においても、授業等でICT機器を活用した割合は90.0%に達し、活用が定着してきていることがうかがえる。今後も情報モラル教育を推進するとともに、ICT機器をより効果的に学習活動へ取り入れられるよう、校内研修や情報共有をさらに充実させていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○特定の教科だけでなく全ての教科で課題探究的な学習が行われている現状が確認できた。 ○ICT や生成 AI の使用方法などについて、今後も情報モラル教育の継続が必要である。			

生徒指導・支援	生徒がきまりやマナーを守り、多様性を認め合うことのできる学級活動や部活動等の集団づくりを生徒が自発的、自主的に行っている。	A	学校評価アンケートの「学校はきまりを守り、落ち着いて生活できる雰囲気にあるか」の質問に対し、生徒の肯定的回答が昨年度の61.8%より増加し、75.2%となっている。1学期には「安心・安全な学級・学校づくり」に向け、生徒の主体的な話し合い活動により、学校全体で課題点と改善方法を共有し、学校生活の改善に向けた取組を行った。また、一人一人の多様性について認め合う学級指導や部活動指導を随時行っている。今後も生徒が主体的にきまりやマナーを守りお互いが認め合いながらよりよい学級づくりを進めることで、絆づくりができる場や機会の提供を継続していき、教員、生徒が丸となって問題事象の未然防止の対策を図っていく。	A	A
	教育相談係、スクールカウンセラー及び関係機関と連携するなどして、生徒の悩みや心配事を相談できる体制を整えて支援し、いじめや不登校、問題行動を防ぐための予防的な指導を行っている。	A	校内学びの支援委員会を毎週実施し、個々の生徒の悩みや課題を教職員間で共有し、スクールカウンセラーや養護教諭のアドバイスも受けながら、迅速に対応できる教育相談体制づくりを整えた。また、いじめや問題行動に対し、各関係機関と連携し、迅速に組織で対応した。全校生徒を対象とした人権教室を実施し、自分と他者を大切にするなど内面的な成長や感情の育成を図り、生徒指導上の諸問題の未然防止的な取組を行った。今後も、いじめ防止対策委員会を定例的に開催し、未然防止的取組を計画的に実施するなどして組織的で迅速ないじめ対応を継続していく。	A	A
	学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会の中で自分らしい生き方を表現できるよう、自己理解を進めながら、「人間関係形成力」、「課題対応能力」等の資質・能力を育てている。	A	日々の学習及び学級活動を通して自分のよさに気付くこと、また、集団の中での自分の役割を果たしたり、他者との関係性について考えたりして自己理解を深める。さらに、高等学校について教員から話を聞く、職業体験をする、大学に赴き、学ぶ体験をする等の活動を通して将来の自分を描く活動を実施した。体験後には自分の言葉で、その体験で得たこと、自分の将来にどのように生かしていくかなどについて、1人1人プレゼンテーションを行った。今後も、小・中・高と自分のキャリア形成の履歴となるキャリアパスポートの記録と活用を継続していく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○中学校3年間で培われた人間関係が一生続くこともある。今後も、同級生、先輩後輩、教職員ら大人との関わりの中で人間関係形成力を育む機会を作ってもらいたい。			

4 学校関係者評価委員によるその他の意見

○以前の中学校では想像もできなかったような大変きめ細やかな取り組みや生徒支援が、啓明中学校で行われていることを知ることができた。学校、家庭、地域の連携を図り、子どもたちの育成の土台を支えていただきたい。